

の友人や氏の崇拜者達から、一日千秋の思ひで待たれて居るものらしく、尙夫人に委ねたものの中から目星しいものをあけます、

Philosophie astronomique; le Monde invisible;

les Métamorphoses du globe: l'Autre Monde

なごがあります。併し何さいつても彼が全生命をブチこんで居たものは

Astronomie populaire

であつて、此の書物に更らに、天界永讃記念碑さもいふべき立派な美しい澤山の寫眞を挿入して新刊さして、世に出さうさいふのです。此の著書によつて、彼が天文學的な天稟の豊かさを知り得て充分ださ、いはれて居ります。

最後に、私さもが襟を正して傾聴すべきさこごがあります。フランマリオン氏は死ぬ朝までも、一九二六年の天體觀測の『手びき』にもさ天文年鑑第六十二號を校正して居つたさいふ事です。氏の天文學熱愛の程も俤ばれて奥床しい限りではありませんか。氏にも優れて、女性のみであり乍ら、天文學熱愛の夫人の爲めに限りなき幸福を祈つて筆をおきます。(L'Illustration, 27 Juin 1925より)

—能田忠亮譯—

天體方位測定機について

會員 津 田 雅 之

天體の位置、運行並に天體相互の位置關係を知ることは吾々初歩の天文趣味を誘發し、進んでは測定的に研究を導き、不知不識の間に天文知識の根本を培ふものである。天體測定機さしては種々専門的高尙なる物は已に多数に有るけれ共その價の廉ならず従つてその設備をなすさこは一寸さ素人向には出來かされるものである。使用法の簡單にして費用も少く素人さして誰れにても準備し得て而も學術的である機構を案出したいさ願望して今回圖示せる如き測定機を考案するに至つた。本機は小學生中學生より或る程度の専門家にも使用するに價するものであるさ信する。

本機を使用して測定し得る事項の概要を記するさ

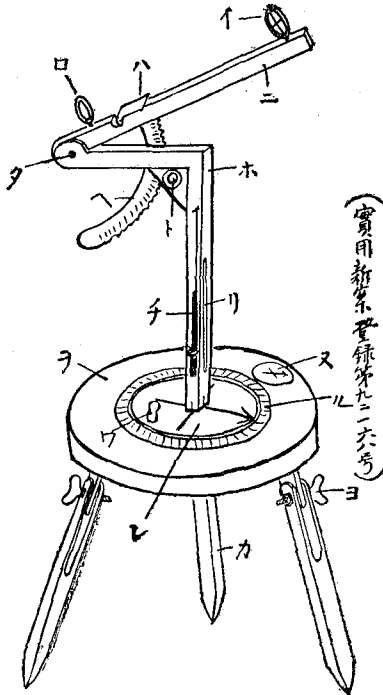
1. 三等星までの天體を測定するさこが出來る
2. 天體の位置(方向さ高度)
3. 北極星さ天の北極さの偏差
4. 太陽の運動狀況
5. 月の運動狀況

6. 恒星の運動
7. 天體間の角距離
8. 太陽や月の直徑(角度)
なほ本機を地理的に應用すれば
9. 地物の方向及高さ(角度)
10. 彼我土地の高低比較
等

右の諸目的に使用するさこ得、且つ約十秒角單位までも比較的正確に測定するさこを得るさこを實驗した。

本機の構造は上の目的のために方向角さ高度角さ測定すべき兩主要部さ之れを運用すべき諸設備から成る。即ち臺板(チ) (挿圖參照)は三脚(カ)を開閉するさこにより水平に置くさこを得るものにして、その水平檢定は之れに垂直なる縱桿(ホ)の側面に附設したる垂下錘(チ)による。横桿(ニ)は照準用にして照準器(イロ)を有し、關節(タ)によりて緩着せしめ、水平方向よりの高度を測定するものさす。之れがため高度角を示す角度弧(ヘ)を具へ齒車(ト)により上下するものさす。照準器(ハ)は太陽測定の場合に限り扛起使用する

ものとす。之れ太陽の強光は直視するに絶えざるを以て(イ)の陰影を(ハ)面に投影せしむるに便なればなり。なほ臺板には方向を定むべき方針(ヌ)を裝定し、且つ方向を測定すべき度盛(ル)を有す。縦桿(ホ)は把手(ワ)により顎板(レ)と共に度盛環(ル)内を廻旋し得るものなりとす。



さて本機を使用せんには先づ方針により臺板を所要の方向に固定し、垂下錘(チ)によりてその水平度を訂正す。而して測定せんことを天體に横桿(ニ)を向け照準器(イロ)によりて正しくそれを照準すべし。此の時高度桿(ニ)の俯仰は把手(ト)を廻旋することにより、水平方向は把手(ワ)により顎板(レ)を廻旋するものとす。然るときは横桿(ニ)の向は所要の天體の位置を示すものにしてその仰角(度盛へ)は高度を示し、顎板(レ)上の矢は方向(度盛ル)を示すものとす。

かく本機は使用法極めて容易にして而も比較的詳細に測定を目的を達するものにして天文研究初歩者殊に小中學生向として適當なるものなるべしと信す。從來よく小中學に於て太陽観測のために棒影を測定するが如き間接

的方法を用ひず、本機によれば直接的而も平易に観測をなすを得る。本考案を湖江に紹介しなほ垂敬を得たいと考へる。因に本機は實用新案第九二六八號を以て登録せられたるものにして本考案のため京大上田先生より種々敬を受けたことを感謝することを附記す

攝政宮殿下天體望遠鏡御買上

侍從武官、兼東宮武官、海軍中佐近藤信竹氏は二月廿日、日本光學工業株式會社を檢分せられ、攝政宮殿下の御料品として、東宮職の名を以て、同社に對し、110 耗天體望遠鏡の製作方を御下命になつた。其際同社に奉職中の東京支部五藤幹事は、折柄調整の爲同社に持参しありたる支部備付の80耗望遠を使用し太陽黒點を近藤武官の觀望に供し、望遠鏡の構造を詳細説明申上た結果、接眼部「フアインダー」等同望遠鏡と同様にこの御指定で、前記の通り御下命になつたのは、日本光學工業會社は勿論、本會に取つても、亦光榮の至りである。同社に於ては、四月十五日迄に謹製上納申上ぐる趣であるが、洩れ承はる所に依れば四月廿日より實際御使用の趣にて、豫て科學に關し深甚の御造詣あらせらるる攝政宮殿下には目下御研究中の生物學より更に天文學の御研究に進ませらるるものと拜察せらるゝ次第である。

尙、五藤幹事より近藤武官へ二月號「天界」を贈呈し、本會の現状を御紹介した趣である

因に同望遠鏡は接眼部に三個の直角のプリズムより成る直視形「映像直立プリズム」及一個の「ダハ」プリズムより成る映像直立「ダイヤコナル」プリズムを交互に使用出來「フアインダー」には豆電燈に依る十字線照明裝置及側方より「ガイド」するに便利なる一個の「ダハ」プリズムより成る映像直立「ダイヤコナル」プリズムを備へ、中古徑望遠鏡としては特殊構造のもの由である。(東京支部より通信)